

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

---

# 卒業までを振り返って

---

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 仲山直美

---

## 入学したきっかけ

高校を卒業してから都内の大学へ入学したものの、家庭の事情により1年で退学した私は、いつかは再入学し大学を卒業したいという気持ちが、心の隅にずっと燦っていました。

それから30年という長い時間を経て、それが実現するチャンスが巡ってきたときに、幾つかの選択肢の中から選んだのが東北福祉大学でした。

25年間一般企業の事務職で働いていた私には、福祉の知識も実践もありませんでしたが、今にして思えば認知症を患っていた祖母の介護やシングルで子育てをしたことは、東北福祉大学を選んだ大きなきっかけになったのだと思います。急速な時代の変化とともに適応が難しくなっている社会において、子どもが無事に社会へ羽ばたいたことはとても大きな感謝に値し、何らかの形で社会貢献につながられたらという思いが強かったことが後押しをしました。

---

## 実習

3日間の体験学習では、母子生活支援施設にお世話になり、その間各担当者の方から様々な講義を受けることができました。日中は利用者の方も外出していることが多く直接係る機会はありませんでしたが、それでも施設の中での様子を垣間見ることができ、大学での講義とは違う緊張感や責任感を学びました。

24日間の実習先は、福祉の現場を知らない私はもっと広義な福祉の現場

を勉強したいという思いから、社会福祉協議会を選びました。24日間の実習は多岐にわたり、とても内容の濃いものでした。まず初日には地区の民生委員会議に同席させていただき、そこでは福祉に対する姿勢を反省させられました。今まで民生委員と係ることなく過ごしてきた私には、概ねボランティアでありながら地域のために自分の労力を惜しまず活動している真摯な姿勢に心を打たれました。

社会福祉協議会の網羅する範囲はとても広く、結果多くの人や団体と係ることになります。講義で学んだ『連携』の意味や重要性・必然性、そしてそれを機能させるためには、これまで学んできたことが極めて役に立つのだと改めて感じることができました。それらを適切に他者に表現することができずに自分自身もどかしい思いをもしました。自己覚知の難しさは演習でも学びましたが、自分がわからなかったことやできなかったこと、また学習不足だと感じることは今後の課題にもつながり、実習でしか学習できない貴重な体験でした。日々の記録も、日を重ねるごとに要領を得るようになり、今になるとそれも良い訓練になったと考えられるようになりました。

## 国家試験

---

大学へ入学当初、大学で学んだ知識は自分に近いところで役にたてられたら良いと考えていたので、正直国家試験までは視野に入れていませんでした。しかし、実習で支援を必要としている方たちや支援をしている方たちと直接関わり、社会福祉士になることを応援してくれている方たちに報いるためにも、もう少し自分も頑張らなくてはいけないと奮起させられました。

福祉職を経験したこともなく、膨大な知識を求められる試験問題に取り組むのはとても難題であり、幾度となく諦めようかと思いたくなることも

ありました。しかし、ここまでこれたのは自分一人の力ではなく、家族や大学の先生方・友人・実習先の方々など多くの人が係ってくれたからこそだということを思い起こし、日々寸暇を惜しんで取り組みました。あえて私から伝えられる事と言えば、試験日へ向けて計画を立てることが功を奏したということかもしれません。

## 卒業・合格・今後

---

卒業後は偶然にも自分が子育てをした地域で、社会福祉士資格を持つ放課後児童クラブの支援員の募集があり、半年ほど勤務しました。地域への恩返しの意味もあったのですが、私が子育てをした時代とは様子も様変わりしていて、何よりも発達障害を抱える児童の多さには驚きました。資格を保持しているから何かができたなどという結果を残せたとは言い難く、社会福祉士の専門性が教師や保育士に比べ周知し難いことも感じ、また同時にそれは自分の力不足から起こるものでもあったのかもしれません。

資格は取ったから終わりということではなく、そこからがまた新たなスタートだとも思います。今後も自分にできることを探しながらも自己研鑽に努め、来年度から新たな取り組みをすべく準備中です。

規定の年数で卒業でき、国家試験にも合格できたことは周りのサポートがあつてのことと改めて感謝しています。通信制で勉強するのは周りが見えないため、孤独であったり不安であったり何よりも自分の意志が試されることでもあると思います。実習にこぎつける前にも様々な提出物や課題があり、近くに聞ける人がいない状況の中、自分で確認しながら進める作業は思った以上に大変であったりもします。そのようなときにわかるまで丁寧に対応してくださった事務局の方のサポートはとても心強いものでした。また、試験勉強中に1人追い込まれそうなときは学友も心の支えでした。在学中の先生方の講義も毎回得ることが多く楽しみでしたが、特に国

家試験へ向けての講義は先生方の熱い想いがひしひしと伝わってきました。

働きながら、また子育てや介護をしながらなど日々自分の時間を確保するのが困難な中での学習は本当に大変だと思います。でも、諦めずに努力することは必ず自分の力になります。自分を信じて乗り越えてくれることをお祈りしています。どこかで皆様を待っている人がいるはずですから。

## スクーリング・アンケートより(2)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

- **社会福祉原論 元村智明先生 2015.11/21～23 東京**
  - ・具体例を出しての説明が多かったのは分かりやすくてよかった。
  - ・配布資料が分かりやすくまとめられており、歴史が苦手な私でも頭の中で整理して理解することができました。
  - ・福祉とはなんであるか、先生のオリジナリティのある持論が非常に面白く感じられた。援助者としての視点が重要であるとともに、人生論に終始しない福祉の視点が少し身についたように思う。
  
- **特講・社会福祉学13（福祉産業論） 江尻行男先生 2015.12.19・20 仙台**
  - ・産業としての視点というものに触れたことは大きな意味があったと思う。超高齢化社会に向けて業界としてどう取り組んでいくべきか、大変興味を持ってテーマでした。
  - ・介護を含む福祉を産業の視点を持って考察することが大切であることが、よく理解できた。社会経済の変化やトピックスなど、色々と織り交ぜて説明してくださりわかり易かった。試験問題として挙げられた課題について、じっくりと考えてみたいと思います。
  
- **NPO論 金 政信先生 2015.11/28・29 仙台**
  - ・NPOとボランティアの区別が具体的事例でよくわかった。NPOといえども私たちにしたら利益目的と思う事業を展開している団体もある中で、今回の講義でどのように考えたらよいか理解することができた。また、震災の寄付金がどのような形で使われているのか知る機会となった。
  - ・ただ講義するだけでなく、内容に合ったVTRを使っていてとても分かりやすく、見やすかった。
  
- **乳児保育（幼保特例講座科目） 富澤弥生先生 2015.12/12・13 仙台**
  - ・ポイントを丁寧に教えていただき理解しやすかった。
  - ・レポートを作成し教科書を自分なりに勉強するだけでは分からなかった所など、実際に先生からお話を聞くことでとても理解しやすくなった。
  - ・実際の保育をイメージできるような資料、DVDだったのでよかったです。